

# ぱる通信

地域精神保健福祉コミュニティ誌

新年あけましておめでとうございます

## 特集：『IPSモデルの魅力』 ～壁を越えられるダイナミックさがある～

社会医療法人清和会 西川病院  
副院長 林 輝男先生にインタビュー！



1

No. 227  
Jan. 2017



# は や し て る お 林 輝 男 氏

社会医療法人清和会 西川病院 副院長

医学博士。平成9年～24年 米国立衛生研究所 NIH、客員研究員、staff scientist、主任研究員を経る。海外での経験を活かしながらサイエンスに根差した、分かりやすく、優しい精神医療を目指す。

「IPSは、支援者の思い込みの敷居を外していく役割も担っている。」



## IPSモデルの魅力

## 壁を越えられるダイナミックさがある

平成二十九年三月四日に行われる「第五回IPS全国研修岡山大会」の、大会講演をして頂く  
は や し て る お  
林輝男先生に、大会に先駆けてIPSモデルの魅力や病院での実践について語って頂きました。

島根県浜田市にある「社会医療法人清和会 西川病院」は昭和8年、島根県で最初の精神科病院として開設されました。現在では西日本で最高のレベルの精神医療を目指し、診療所「こころクリニックせいわ」や訪問事業、自立支援事業を行う「ヴィレizziせいわ」では障害者総合支援法に基づく様々な事業が行われています。

—IPSモデルとの出会いについて

教えて下さい。

私は、働きたいという希望を持っている十五歳の青年と出会いました。彼は、反社会的行動をしてしまう青年で、精神科病院への入院の経験もありました。しかし、運動神経が良く体力があり、彼を受け入れ働く場所さえあれば、就労は可能ではないかと感じていました。

今回取材させて頂いた林輝男先生と就労支援専門員の新家望美さんは、平成二八年四月より、社会医療法人清和会では、IPSプログラムに基づく、就労支援を開始しています。

社会医療法人清和会で行われているIPSチームは、「IPS」に清和会の「S」を加え、「S・IPS」（シップス）と呼ばれ、精神科デイケア内に事務所を構え活動しています。

そこで、とにかく体を動かしたい、働きたいという彼に、西川病院の裏にあった荒地を畑にしてもらいました。今では立派な畑になっていますが、これらのことから、現在主流とされている就労支援の形にはめるのは無理があり、何か可能性を引き出すことが出来る支援方法がないのかと考えていました。

他のスタッフに、この青年に良い仕事がないか情報をお願いしていると、結構仕事の情報があがってきたんです。その中で、若者を引き取って一人前にしている棟梁がいると聞き、彼をお願いしてみました。



## 可能性を見出す事が出来る 就労支援の在り方とは？

しかし、「西川病院でお世話になっている人を雇って大丈夫か？」という会社や、家族からも反対があり、結局この話はなくなってしまうました。

そこで、仕事の情報を待っていても仕方がないので、外に仕事を探しに出かけました。漁港という土地柄を活かし、船会社の社長に繋がる事が出来、彼はついに舟に乗る仕事に就くことが出来ました。その後も色々あったのですが、彼は人生で初めて仕事就き、生き生きとしていました。私たちは彼に怒ることはしませんが、船の仕事は命がかかっていますから、職場ではかなり怒られたり、時には殴られたりしたようです。しかし、彼にはそれが合っていました。船長さんにご飯を食べに行っておごってもらったりするなど、かわいがってもらったという経験をする中で、彼は無理だと思っていた働く経験が現実のものになったのです。

## アメリカのIPS実践を学ぶ ため、ベッカーさんに連絡

アメリカの精神医学会の雑誌を毎月読んでいたのですが、エビデンスベイスの就労支援の研究が掲載されていて、就労支援でエビデンスベースのものがあるのかと思いい興味を持ちま

した。

約五年間で、IPSで就労した対象の方が、五年後も高い就労率を出しているという内容を見て、私の中でこれしかないと思ったのです。

早速、\*ベッカーさんにメールを送りました。二、三回メールを送った後ようやく返事が来て、実際にアメリカ行きIPSの現場を見ることが出来ました。今から二年前のことです。また来年も行き、今後も定期的に行きたいと思っています。

今年、「IPSラーニングコミュニティ」という、ベッカーさん主催で毎年行われているIPS世界大会に参加させていただきました。アジアからは私だけだったのですが、オーストラリアやヨーロッパの国々からも来られていて、それぞれの取り組みの発表を聞くことが出来、大変勉強になりました。

\*ベッカー(Becker, D, R)

Robert E. Drakeと共に、援助付き雇用IPSアプローチについて執筆および調査を行っている。

## IPSモデルの魅力について 教えてください。

そうですね。たくさんありますが、「色々細かいことを言わずに飛び越えてみよう」という、「壁を越えられる感じ」でしょうか。

私たちは狭い世界の中で、「ああし

ないと、こうしないと」と考えていることが多く、外の世界がもっと広いということが見えにくく、気づいていないということがあります。

しかし、IPSを実践していると、たくさん選択肢が見えてくるのです。病院の中は、「デイケアに毎日通いなさい」という狭い価値観の世界にいますが、外に出るとたくさん可能性やチャンスがあるんですね。

## 病院内でIPSを実践するにあたっての、スタッフの反応はどうでしたか？

西川病院の場合は、元々地域に目を向けている文化があるので、スタッフからそんなに目立った反応はなかったんです。

しかし、そうは言っても皆さんの中には、「大丈夫だろうか？」「成果が上がらないのではないか？」という心配された声もありました。また、「精神疾患を持つている人がそんなにうまく就職出来るの？」「雇ってくれる企業が見つかるの？」。そういう細かい心配事です。

## 実際に就労者が増えることで、 スタッフの見方に変化が！

しかし、ここ半年の間でも随分変わったと思います。「このケースなら

## IPSモデルとは？

1990年代にアメリカで開発された就労モデル。多くの研究でその有効性が報告されていて、現在では、科学的根拠に基づく実践(EBP)の一つとされています。

本人の希望、気持ち、長所を尊重して、医療と一体となると、統計的に高い就職率や定着率が確認できました。この方法をIPSと呼びます。IPSは、「どんなに重い精神障害を持つ

人々であっても、本人に働きたいという希望さえあれば、本人の興味、技能、経験に適合する職場で働くことができる。働くこと自体が治療的であり、リカバリーの重要な要素となる」という信念に基づいています。IPSの目標は仕事を始める手助けをすることであり、必要以上の評価や訓練によって、求職活動や面接の過程を就労の障壁としないようにすることにあります。





IPSで就労支援を頼もうか」ということを、普通に言われるようになりました。また、「IPS、頑張っているね」と、他の先生にも言ってもらっています。この実践に取り組む中で、「えー！この人が仕事に就いたの？」という方が、一人、二人と仕事に就かれていくと、病院スタッフも「考え方を変えないといけないのか」と感じるようになりました。



(写真右)

西川病院(島根県浜田市)、IPS就労支援チームの就労支援員、精神保健福祉士の新家望美さん(左)と林輝夫先生(右)。

「西川病院のIPSモデル実践チーム、S・IPS(シップス)スタッフ新家さんは、スタッフの変化に実感がありますか？」

始めのころは周りから、「上手くいくのか？」という心配がありましたし、「新家さんたいへんだね。がんばってね」という声が上がっていました(笑)。しかし最近では、色々と相談を受けるようになりました。

**支援者が、いかにIPSを信じられるかどうかにかかっている！**

ベッカーさんに直接会いに行き講義を受け、ベッカーさんが繰り返し熱く言われていたのが、「支援する人たちが、IPSを信じられるかどうか」ということです。私もスタッフも、ぶれないようにしないといけないという事は常に感じています。

また、IPSを導入する時には、きちんと手順を踏まないといけないということを教わりました。そこで、病院内の運営会議などでは、IPSモデルの理念や取り組みについて繰り返し説明もしましたし、三カ月ごとに実績を集計して、理事会で報告するようになりました。

院内のスタッフにも、ポスター掲示や新聞などによって、実績が一目分かるようにしています。

(新家さん)



S・IPS(シップス)の実績報告の掲載の様

「医療機関で行うIPSモデルの強みを教えて下さい。」

やはり、医療機関で行う場合は、医師とスタッフとが非常に近いところで実践出来るということが出来る。すぐに顔を合わせることが出来ますし、敷居が低いです。ね。

「どうしても支援者の中で、一般的な働ける基準というのを設定していて、一定のレベルに達成してないと就労は難しいと考えてしまいがちですが・・・。それらのことについて、どのように感じておられますか？」

それは、一つの弊害としてよくあ

ることだと思っています。何か「この人はまだまだ」とか、「無理だろう」という判断をされているために、本人も無理だと思ってしまうのは結構あると思います。

**IPSは、スタッフの意識改革の面でも期待が出来る！**

私は、IPSの役割はそういうところにあると思うのです。単に精神障害を持つ人の就労や夢を実現するということだけでなく、福祉や医療にかかわる人たちの意識を変えたいというのがもう一つ大事なことでと思っています。

「あの人があんなに活躍している」という思いが、支援者の思い込みの敷居を下げていく役割があると思います。スタッフの意識改革という面でも期待しています。

「自分の病気の理解や体調管理が上手いかなんかについて、具体的にどのようにして、自分自身の理解をすすめているのですか？」

ご本人が、自分と向き合う作業は無視してすぐに就職したいという場合は、そこに目を向けながらアセスメントをしていき、必要に応じてフィードバックをしています。特に病氣理解や自己理解を促すことは基本しなです。(新家さん)

「IPSは「何も訓練させずに就職させている」「失敗をすすめているのでは？」という批判に対して、どのようにお感じでしょうか？」

結局、自分たちに当てはめれば簡単なことで、子どもでも「これをしないと褒美をあげない」、というやり方は機能しなくなるんですね。やりたいことがあるから、ここをクリアーしないといけないからがんばる、ということが大事なんです。

自分たち（スタッフ）も上手く出来ないのに、どうして彼らの思いとは逆の方ばかり要求するのでしょうか。とても基本的なことで、私たち支援者は常識的に関わることが一番大切なんです。

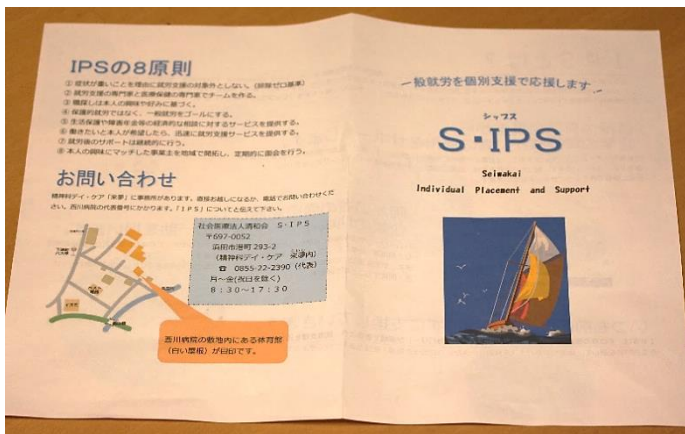
結局は、失敗しないと気づきにくいところがあるというのは、みなさん当然感じていることです。仕事に就きたいという思いに対しては、まず仕事に就き、問題が出た時に自分自身で気づいて取り組んでいくことが大事です。私たちも普通に行っていることです。よね。

「S・IPS（シップス）チーム内での医師の役割について教えてください。」

小さなチームで取り組んでいますので、チームの一員として活動しています。実際には、訪問などはスタッフ

二名で行っていますが、スタッフのスーパーバイザーとして、一週間の活動状況を聞いて、次どうするかを一緒に考えていくことが私の役割です。

医師としての役割というのは、特に治療的な部分や診断的な部分ですね。「このような疾患特性がある方にはこういう思考のパターンがあるから、このようなアプローチの方がいいのではないかな」、この方は、認知的にはこのような傾向があるので、こういう対応をこのようにした方がいいのではないかな」など、少し医師としての色合いをつけるようなコメントは、時々行っています。私を含め三名のスタッフ



S-IPS(シップス)のパンフレット

「日本でのIPSモデル実践における課題について教えてください。」

制度的なものがIPSを運用できる形になっていないというのは、皆さんも感じている大きな課題だと思います。

**ポジティブ思考が、日本のIPS実践を変える！**

更に私は、風土の問題も大きいと思います。職場風土ですね。アメリカの職場を見学させてもらって感じたのですが、ポジティブシンキングと何度も言われていました。これを維持したり高めたりするというのに、職場内で相当エネルギーを割いているんです。しかも、それを実践する役割の人が必ず明確にいるんです。

スーパーバイザーこそが、いつもポジティブシンキングを意識し、下がってきていると感じたら元気づけ、意識を高めていきます。

特に私たち支援者には、ポジティブでいかにいることが出来るかが求められますが、現実には、上司からは普通に悪気なく、ネガティブな発言がされることが多いです。ここは本質的な問題だと思っています。

（新家さん）私がネガティブなことを言っても、林先生からはポジティブに返されますよ（笑）

取材を終えて

現在、欧米だけでなく日本国内においてもIPSを志向する実践は行われていますが、普及には至っていません。

西川病院のS・IPS（シップス）の取り組みは、IPSモデルの原則を忠実に実践し、医療の専門的視点の元にプログラム化されている、数少ないIPS実践チームの一つであることを実感しました。

これまでの就労に対する支援者の思い込みや枠組みを取っ払い、発想の転換をしながら、ポジティブに就労支援を展開していくスタイルに大きな魅力を感じました。「IPS全国研修」での林先生のご講演が楽しみです。



貴重なお話ありがとうございました。（杉原）



# 第5回 でえれーええが！IPS！ IPS全国研修開催！in 岡山

2017 年  
3 月 4 日(土)

9:20～16:40

(受付開始は 8:45 からになります)

川崎医療福祉大学

〒701-0193 岡山県倉敷市松島 288



定員先着  
300 名

基調講演 9:30～

「IPSの魅力と可能性」早稲田大学教授 田中英樹氏

大会講演 10:40～

「なぜIPSを始めようと思ったのか  
～アメリカ視察から現在の取り組みまで～」

社会医療法人清和会 西川病院 副院長 林 輝男氏

分科会 13:00～

6 分科会

シンポジウム 14:45～ 各地におけるIPS実践報告

## 参加申込み受付中！

申込み詳細はチラシをご参照ください！

9:20～9:25 開会のあいさつ 岡山大会会長 長崎和則

9:30～10:40 基調講演「IPSの魅力と可能性」早稲田大学教授 田中英樹氏

10:40～12:00 大会講演 「なぜIPSを始めようと思ったのか  
～アメリカ視察から現在の取り組みまで～」

社会医療法人清和会 西川病院 副院長 林 輝男氏

12:00～13:00 昼休憩 フィデリティ報告

13:00～14:30 分科会

①「治療としてのIPS」	講師：中原さとみ氏（桜ヶ丘記念病院 PSW：東京都） 佐藤江美氏（慈雲堂病院 PSW：東京都） リハビリキーキャバン隊（東京都）
②「正しいストレングスモデル」	講師：山口創生氏（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 援助技術研究室長：東京都） 畠木奈津恵氏（多機能型事業所あすなろ 就労支援担当：岡山県）
③「動機づけ面接のいろは」	講師：香田真希子氏（目白大学 准教授：埼玉県）
④「職場開拓のスキル」	講師：本多俊紀氏（コミュネット楽創 総務部部長：北海道） 池田真砂子氏（社会生活サポートセンターこみっと 就労支援担当：東京都）
⑤「発達障害とIPS」	講師：柴田泰臣氏（ユースキャリアセンターフラッグ 施設長：千葉県）
⑥「定着・フォローアップについて」	講師：大島みどり氏（障害者就職サポートセンタービルドⅡ 施設長：東京都）

14:45～16:30 シンポジウム 「でえれーええが！IPS」各地におけるIPS実践報告  
コーディネート 長崎 和則(川崎医療福祉大学教授)

報告者 社会医療法人清和会 西川病院(島根県) 一般社団法人FLaT(広島県)  
多機能型事業所あすなろ(岡山県)

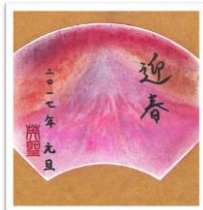
16:30～16:40 閉会

投稿・募集  
コーナー



↑英聖 作

「続失デビュー11周年」vol.1 4 ふじ一歩

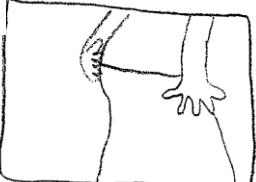


←「新年を祝して」英聖作

薬の副作用のせいか、食べても食べてもお腹が一杯にならなかった



顔も二重あごだった



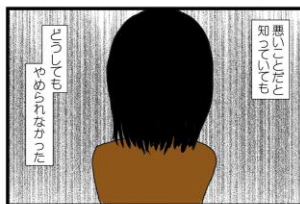
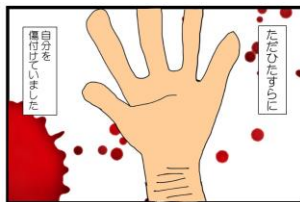
今は新薬になったお陰か適量で満足するようになった



お腹も満腹になって幸せ～



自傷行為



勇氣

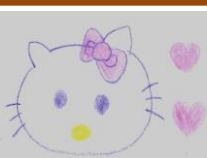


人ほとんど人でも  
一瞬善人になる時がある  
それは  
子供に名前をつけるとき  
ありったけの想いを込めて  
人は善人になる  
でもなぜかその心を  
人は忘れてしまっ

匿名希望



イラスト・絵・  
詩・文章など作品  
投稿募集中!



↑坂本夕加 作

(前回からの続き)  
ここで話の範囲を広げてみよう。自国の企業の製品が売れなくなったのは、その企業の製品の品質が劣っているか、もしくは価格が高すぎて誰も手が出せないかの、いずれかであらうと思われる。日本の場合、後者が該当すると思われる。だから日本のメーカーは海外に生産拠点を移し、その結果、国内労働者は職を失った、といったことは前回書いた通りだ。  
だが考えてみてほしい。海外の会社の製品が売れるということは、その海外の会社で働いている外国の労働者にはプラスになっている、ということだ。つまり職を失い収入を絶たれる労働者がいるということは、その一方で、逆に職にありついて収入を得ることができる労働者がいるということだ。  
では、自分が職を失ったことは、その外国の労働者にとってはプラスであり、だから自分はその外国の労働者のために自分を犠牲にしたのだ、と考えるだろうか。しかもその外国は経済力が非常に弱く、またたびたびテロが起き、政情も不安定だとしたら。  
国際貿易というのは、こうした世界各国の貧富の差をなくし各国の経済力を均等化しようとする試みである。日本企業が海外に生産拠点を移したことも、ある意味では日本の国際貢献だということもできるのである。我々はまだ世界の国々の中では恵まれている方だ、と自覚することで、企業の業績の見方も変わってくると思う。

古楽日和

藤井健喜





# あすなろ忘年会 2016 島根観光と 玉造温泉の旅！

二〇一六年も行って来ました！あすなろ恒例一泊二日の忘年会旅行。今年の行先は島根です。

今回のテーマは「あすなろ忘年会 in 島根 ゆっくりゆつとりのあすなろ忘年会だぞっ！」楽しい声が聴きたくて「でした。年々長くなるテーマは、今回も忘年会実行委員のメンバーが考えてくれたものです。楽しかったあすなろ忘年会の思い出を紹介します！

一日目のメイン観光は出雲大社です。約三時間弱のバス移動中、盛り上げてくれたのは、実行委員のみなさんの楽しいレクでした。



横丁」で昼食を摂ったあとはいよいよ参拝です。言わずと知れたパワースポット！縁結びの神様としても有名ですよ。ガイドさんに説明をしてもらいながら境内を歩くと、見えてきたのは大中連縄と呼ばれる巨大なしめ縄。その迫力にびっくろ！

出雲大社前の「こ縁



その後は島根ワイナリーへ。お楽しみ

みの試飲会場では、六種類のワインの飲み比べができました。お酒の飲めない方には、ぶどうジュースもあり、絞たての美味しさを堪能しました。



旅館についたのは、もつ日も落ちた十七時半頃。今夜のメインイベントの宴会までは、温泉に入った後、近くを散策したり…。



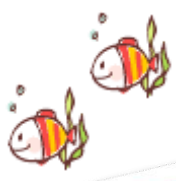
宴★会大盛り上がり！

宴会は、今回も趣向を凝らした出し物がいっぱい！大いに盛り上がりました。玉造温泉界隈の海の幸にも舌鼓！おなかいっぱい、笑いもいっぱい。一年の計は忘年会にあり？二〇一七年もいいことがありますように。



翌日はシロイルカのバブルリングが有名な、しまね海洋館アクアス。見ると幸せになれるという「幸せのバブルリング」愛嬌のあるシロイルカが口を膨らませてポコッとリングを出す度に、みんな「おおろろ！」と歓声をあげていました。他にもたくさん海の生物を、童心に帰って見学しました。こうして無事、二〇一六年も締めくくることができました。

二〇一七年もどうぞ宜しくお願いします！





ジョブからクリスマスプレゼント！

ジョブ卒業生よ集おう！

OBOG会開催！



十二月二十四日(土)クリスマススイブ・・・ジョブを卒業し一般就労された方に向けたOBOG会を開催しました！

参加者は総勢十名。ピザやお寿司、お菓子などを食しながら近況について語り合いました。今やっている仕事は？最近はどうしている趣味は？仕事を始めて変わったことは？あすなろで印象に残ったエピソードは？などなど・・・皆、参加者の話を聞き歓声を上げたり、過去を振り返ったりしていました。

参加者の中には、差し入れでロールケーキを持って来てくださったたり、サプライズでお洒落なノンアルカクテルを用意してくださった方もいました。最後には、来年をどんな一年にしたいかを漢字一文字で表し、語り合いました。

今回のOBOG会が、働く皆さんにとって憩いの場となっていたらいいなと思っています。また近況について語り合いましょー！



## 12月は販売ラッシュ！

あいサポートフェスタ二〇一六&市役所販売に出展！

十二月五日・六日は「あいサポートフェスタ二〇一六」に出展させていただきました！イオンモール一階の一角に、クッキーと陶芸を置かせていただきました。クッキーなどお菓子類は大好評でほぼ完売しました。お買い上げいただいたお客様ありがとうございました！

十二月十九日・二十日は「市役所販売」に出展させていただきました。今回は初めての試みとしてスタンプリー



を導入。多くのお客様に陶芸や焼き菓子を手に取ってくださいました！どちらのイベントも、メンバーさんも店番の応援に駆け付けて下さり、どちらのイベントも無事終えることができました！



二月の「癒し場」開催しました！

二月一日(木)運営者を入れて七名の参加で「癒し場」を開催しました。

皆さんから出して頂き、話し合ったテーマは、①「これから先には辛い事が沢山有りそうに思えて生きていく自信が無い・・・皆さんはどう思いますか？」②「困った時に自分で解決しようとするが、それが合っているかどうか判らない・・・皆さんはどうですか？」③「あなたにとって自分らしさ」とは何ですか？」の三つでした。

①のテーマでは、苦しさとか向かい合って解決する意見と苦しさを紛らわして気分を変えて生きていく意見とが分かれました。ただ、共通しているのはどの意見にしても、苦しさとの付き合い方を自分自身で主体的に選んで実践している点だと感じました。

②のテーマでは、自問自答する事も含め、各々の信じられる相談相手に相談するという意見がほとんどでした。自信の無い中で迷い戸惑いながら毎日過ごしている事、そんな中で他人に自分の個性や考えを肯定して欲しいというのが参加者共通の想いであるように感じました。

③のテーマでは、明るい時や前向きな時が自分らしいというのが大半の意見でした。

あつという間に新しい年がきました。今年も皆さんと一緒に癒し場をよい時間にしていきたいと思います。よろしくお願いします。



次回は2月に開催します！(日時は未定)

13:00～ジョブサポ1階 多くの方の御参加を心からお待ちしております。見学・途中参加も歓迎です！

\* 他の参加者を批判したり改善を強要しない事を第一のルールにしています。



# INFOMATION

## 1月の予定

1月		
16	月	
17	火	健康講座「ビリーズブートキャンプ」10時
18	水	WRAP10時
19	木	
20	金	お菓子サークル「いちご大福」13時
21	土	
22	日	
23	月	
24	火	PC講座「応用コース」10時
25	水	
26	木	フットサル 13時(12:30 あすなろ出発)
27	金	ソフトボール 13時 つどい 13:30
28	土	お抹茶サークル 11時
29	日	
30	月	
31	火	健康講座「ジム」10時

### 2月の予定 ※変更の可能性もあります

1	水	
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	PC 講座 10時
8	水	
9	木	
10	金	

※プログラム・サークル活動に参加希望の方はご連絡を  
よろしくをお願いします。

※日程が変更になることもありますのでご確認ください。

- 発行: 社会福祉法人あすなろ福祉会
- 〒700-0822 岡山市北区表町 3-7-27
- 編集: ばる・おかやま
- TEL: 086-201-1720 FAX: 086-201-1713
- E-mail: pal-oka@mx35.tiki.ne.jp
- ホームページ: <http://asunarofuku.jp/>

## 20日(金) お菓子サークル

**内容** いちご大福をつくろう!

**場所** ばるおかやま

**時間** 13時30分から

**参加費** 100~200円(参加人数による)



## 26日(木) フットサル

**場所** 岡山ドーム

**時間** 12時30分あすなろ出発

13時 現地集合~15時まで



## 28日(土) お抹茶サークル

**場所** ばるおかやま

**参加費** 100円(お菓子付き)

**時間** 11時~



### <1月ピア電話相談日>

	火	水	木	金	土
	3	4	5	6	7
AM	休	休	○	休	○
PM	休	休	休	休	○
	10	11	12	13	14
AM	○	休	休	○	○
PM	○	休	○	○	休
	17	18	19	20	21
AM	○	休	○	○	○
PM	○	○	休	○	○
	24	25	26	27	28
AM	○	休	休	○	○
PM	休	休	○	休	休
	31				
AM	○				
PM	○				

### ピア電話相談とは

「ピア(peer)」とは、「仲間・対等」という意味。ピアセンタークローバーでは、同じ病気の体験をした仲間たちが、自分の経験をもとに、同じような悩みで困っている方々を支えていくピアサポート活動を行っています。気軽に電話ください!

**午前10時~13時**

**午後13時~16時**

**ピア電話相談**

**086-201-1719**

来所相談も行っております。  
ご相談ください。

